

朝日新聞
昭和20年9月16日(日)

お、元素分離装置

コンプトン博士帝大へ

原子爆弾の実現とともに干渉した一人として忘れられない名前となつたアメリカのK・T・コンプトン博士が十五日午前十時シブを駆つて突然本郷の帝大を訪れ

た、総長室に招じ入れられた博士は内田総長以下工學部の教授と懇談を重ね大學が戦争にどういふ役割を果したか、科學動員の方法などについて詳細な質問をしたのち

同學内の原子核の實驗室を熱心に参観した

白髪のある顔に飴色のロイド眼鏡をかけ、カーキ色の兵服を纏つた中肉中背の博士は科學者といふよりは軍人にちかい感じがする、地下実験室は高電壓機、放射能測定器など薄暗い午後の陽をにぶく反射してゐる

主任の嵯根教授の案内でコンプトン博士は科學者らしく質問をつゞけたがら見て廻つた、アメリカにもまだ出来てゐない同位元素の分離装置が興味を中心らしく、そのグラフを求めてしきりとうなづいてゐた、中庭にあるバンダグラフ(高電壓機)のかたはらに作られた菜園をかへりみて「なんでも自給自足」とかたはらのものをかへりみて微笑する

嵯根教授談 コンプトン博士はアメリカのM・I・T工科大學総長兼ルーズヴェルトのプレントラストの一人で科學動員を一手に掌握し、アメリカ科學戰を勝利に導いた人です